

各種計画評価シート

No. 23

主管課：係名	福祉介護課：介護保険係
計画名称	第8期介護保険事業計画
策定の趣旨 (目的)	平成12年に介護保険がスタートし20年以上が経過する中、これまで団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えて行ってきた取り組みから、団塊ジュニアが65歳になる2040年を中長期的な目標年度と捉え、地域共生社会の実現に向けた取り組みにシフトしていく必要がある。第8期計画では、①介護予防・地域づくりの推進、②認知症施策の推進、③地域特性に応じた介護基盤整備、④質の高いケアマネジメント、⑤介護現場の革新（人材確保・生産性向上）等を主要施策とし、介護予防に資する地域づくりを推進して健康寿命を延伸しながら、多職種の連携を強め、地域包括ケアシステムの推進を目指す。
計画期間 〔策定年月日〕	令和3年度～令和5年度の3年間 〔令和3年3月策定〕
総合計画、法令 等の位置づけ	・策定の根拠となるもの 根拠法：介護保険法 上位計画：昭和町第6次総合計画、昭和町第4次地域福祉計画 関連計画：高齢者保健福祉計画、地域福祉活動計画（社協）
計画の概要	・主な内容（特徴、予算、その他） ●介護サービスの見込み量を算定し、介護基盤整備を行う。また、3年間に要する介護給付費総額から介護保険料を算出し、適切な保険料基本額を設定し、健全な財政運営に取り組む。 ●地域包括支援センターの役割、介護予防事業の活性化、その他地域支援事業の取組（認知症施策、在宅医療介護連携、生活支援体制整備、高齢者権利擁護等）などを明記し、地域包括ケアシステムの推進を図る。
	・計画策定体制（計画を策定した組織・機関とプロセス） 組織：厚生事業計画策定懇話会 介護保険事業計画専門部会 過程：高齢者実態調査の実施→策定懇話会（1回）→専門部会の開催（3回）→パブリックコメントの実施→懇話会において素案の承認
	・策定時の町民意見聴取手法 策定委員に第1号被保険者と第2号被保険者を含めた。 パブリックコメントを実施し、広く意見を求めた。
	・計画推進体制（計画を推進する組織・機関とそのプロセス） 福祉介護課介護保険係・地域包括支援センター・社会福祉協議会
	・目標設定の有無（数値目標の有無） 有
	・評価方法 毎年度末、年次計画の実施状況、数値を出して、評価を実施。 また、地域支援事業全般については、包括支援センター運営協議会において事業報告を行い、委員から評価をしてもらっている。

主な施策と進捗状況	第8期計画の3年間は、コロナ禍で事業を縮小せざるを得ない局面も多々あったが、その中においても着実に事業を行ってきた。 第8期の3カ年計画の最終年である令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により住民主体の介護予防の場に活気が戻り、さらに包括支援センターの体制が強化されたことで、認知症施策・生活支援体制整備事業・在宅医療介護連携推進事業などが大きく前進した年であった。 認知症施策については、初期集中支援チーム、サポーター養成講座、認知症カフェ、認知症月間イベントを継続して開催し、さらに新たな取り組みとして、本人カフェの開催や、令和6年度から事業を開始する『認知症伴走型支援拠点』の基盤整備を行った。 生活支援体制整備事業は、前年度までの周知活動から、実際に住民主体の協議体活動へシフトし、毎月定例会を行い、住民主催のフォーラムを開催した。 在宅医療介護連携推進事業では、やまなし県央連携中枢都市圏推進協議会において専門職向けの情報サイトや住民向けの医療介護資源情報サイトを開設し、利便性を向上させた。 その他ケアマネ研修会の実施、個別ケア会議の開催等で、介護従事者への支援を行い、スキルアップを図った。
未執行の施策と執行できない理由 〔課題A〕	① 地域ケア会議の開催 実務者レベルの地域ケア会議は開催しているが、代表者レベルの地域ケア会議が開催されておらず、各事業が連動できていない状況。地域課題の解決に向けて、代表者レベルの地域ケア会議を開催し、地域づくり、資源開発、政策形成につなげていく必要がある。できていない理由としては、体制づくりのノウハウがないことと、招集したい関係者がすでに別会議の委員となっており、会議数が増えると委員の負担が大きくなるため。 ② 介護現場の革新（介護人材確保・生産性向上） 全国的な課題であり、国・県でも、外国人材の受け入れ、ICT化、介護ロボットの導入などに取り組んでいるが、介護現場の人材不足は厳しい状況が続いている。
今後の計画の進め方 〔課題Aの解決策〕	① 代表者レベルの地域ケア会議の開催に向けて、他市町村の事例を参考にしながら具体的に話を進める。 ② 国・県からの情報を介護事業所へ随時提供し、利用できる制度を有効活用していただくよう促していく。町としても事業所と連携できる部分は連携し、安定した運営が継続できるような支援を行っていく
総合的な自己評価	計画全体の総合評価 〈 B 評価〉 ランク分け A＝達成できた B＝概ね達成できた C＝一部達成できた D＝ほとんど達成できていない ※上記評価となった理由 計画最終年であるが、地域包括ケアシステムについては発展途上状態であり、今後も推進していく必要があるが、個別の事業により礎はできつつあるので、現在の進捗状況を踏まえ「B：概ね達成できた」と評価した。今後、次期計画において内容を引継ぎ、地域包括ケアシステムの深化を進めていく。

※参考資料がある場合は添付すること。